

平成２７年度第１回若葉区支え合いのまち推進協議会会議録

日 時 平成２７年６月８日（月）
10時00分～12時00分
場 所 若葉保健福祉センター３階 大会議室
委員定数 30名、出席委員：23名
事務局：14名、傍聴人：0名

【１】次第

- 1 開会
- 2 若葉区支え合いのまち推進協議会委員長挨拶
- 3 若葉区長挨拶
- 4 新任委員照会
- 5 議題
 - （１）各地区部会エリアにおける具体的取組みについて—各地区部会から発表—
 - （２）今年度の年間スケジュールについて
- 6 その他
 - シニアリーダー講座について（地域包括ケア推進課）
- 7 閉会

【2】議事要旨

2 議題

【議題1】各地区部会エリアにおける具体的取り組みについて—各地区部会から発表—

高齢障害支援課

具体的取り組み項目について各地区部会エリアから記録票の下記項目を中心に5分間以内で発表をお願いいたします。

- ・三か年の具体的取り組み
- ・活動主体
- ・目標

次に、質疑応答については2分間とさせていただきます。

では、順次発表をお願いいたします。

委員 A

⑫活動団体同士の連携・交流について

【地区部会、民生委員、町内自治会、あんしんケアセンターと連携し地域で抱える課題の明確化と共有化された課題を解決するため域ケア会議を開催】

- ・他の事業活動も控えておりますので、早い段階で担当を決めるなど推進体制を整えたい。
- ・隣接する地区部会と合同で年一回開催し、次年度以降は他のエリアにおいても開催をしていく。
- ・活動主体は、地区部会、連協、あんしんケアセンター
- ・現在は地域ケア会議を開催していないため、積極的に行う必要がある。

(質疑応答) なし

委員 B

⑭防災・減災活動の実施について

【自治会への向こう三軒両隣・防災・助け合いマップの提案と作成】

- ・各自治会に防災・減災活動についてふれても意識に差があり、活動を広めることで、地域の防災に対する意識の均一化を図りたい。
- ・自治会について、提案やヒアリングを検討し、モデル地区にて事業の展開し、2、3年目で活動の拡充を図る。

(質疑応答)

委員 C

マップ作成に係る要支援者の情報はどこで収集されているのか。

委員 B

定期的開催される会議に自治会関係者や民生委員に出席してもらい情報収集を図る、また、あんしんケアセンターから情報を得ております。

(質疑終了)

発表者 D	⑤気軽に過ごせる居場所づくり ⑦地域でできる介護予防・健康づくりについて 【サロンの新規開催に取組み、千葉市政出前講座またはサポートセンターの協力による講座を開催する】 ・エリア内は広く、その中に13町内自治会が存在する。対象者を一か所に集めることが難しいため自治会単位での開催が望ましい。 ・民生委員や地域で活動される方々との接点は総会などの会議になり、その場で情報交換を行っている。 ・町内自治会の協力で、昨年度は脳トレ講座を開催することができた。試験的に始めたものであったが、好評だったため拡充を目指す。課題は、町内自治会での回覧通知のため人数把握ができない点。 (質疑応答) なし
委員 E	⑦地域でできる介護予防・健康づくり 【高齢者の健康づくりにより生活の質を維持する】 ・将来推計における高齢化率の高さや支援体制の衰退により、共助の仕組みが成り立たなくなる可能性がある。 ・実施しやすいサルコペニア（＝筋肉喪失）の予防を推進。握力測定、歩行速度計測により、自身の筋力の認識と筋力保持を目指す。 ・町内自治会への呼びかけを行いイベント開催するが、参加には消極的である。意思を示していただけた団体から取り組んでいく。 (質疑応答)
委員 F	専門的知識がないが、町内自治会への事業化体制に向けたアプローチはどうされているのか。
委員 E	一斉参加は不可能であるため、一度のイベントに65歳以上の対象者だけでなく、65歳未満の方にもイベントボランティアとしてなど積極的に参加してもらえよう促し、体験してもらう。 意識を根付かせることで、町内自治会活性化へ繋げたい。
委員長	①専門家が立ち会うことになるのか。 ②自治会へのアプローチについて。町内自治会で意識の差があるかと思う。呼びかけなど工夫されている点を教えて頂きたい。
委員 E	①運営メインは地区部会で行う。しかし、協力機関に依頼することもある。 ②手挙げをしてもらった町内自治会から取組み、徐々に活動を広げ

	たい。 (質疑終了)
発表者 G	⑮災害時に避難できる体制づくり 【災害時に備え必要な情報を地図上に表記し、自助向上を目指す】 ・近隣に病院やコンビニが少ない、避難所への移動も数キロ離れているため被災時点で生活物資の供給が絶たれる可能性がある。 ・自助の向上が必須。 3年計画ではあるが、早急な取り組みが必要である。
	(質疑応答)
委員 H	避難所運営についての地区部会の役割はどうされているのか。
発表者 G	この取り組みについては、地図作成に特化したものである。
委員 I	講演会で、東京湾北部地震が千葉市で起こるとすると5～6強程度が見込まれ、数年以内に5割以上の確率で起きると聞いた。早めの完成を願う。 (質疑終了)
委員 J	③公園やサークル活動を利用した交流機会の創出 ⑦地域でできる介護予防・健康づくり ⑬防犯活動の実施 【ラジオ体操をメイン活動にし、地域活性化へ向けて取り組む】 ・自分たちがやれるものから取り組んでいく。 ・開催場所が少ない地域での取り組みを如何にするかが課題。 ・市社協と連携して行った、買い物支援が本人や身内の方から好評であった。住民が満足していただける活動を行っていく。
	(質疑応答)
委員長	①実動は何名くらいで行っているのか。 ②積極的に展開される町内自治会との関係性はどうか。
委員 J	①ゴミ出しについては、両隣及び向かいのお宅が支援にあたる。 買い物については、施設のデイサービスを利用して行っている。 ②主に支援が必要な町内自治会へ働きかけを行っている。
委員 I	買い物支援について デイサービスの協力は、自分の地区においてもヒントになった。 ラジオ体制について

		どの位の頻度で行われて、どれだけの参加者がいるのか。
委 員	J	地域によって毎日の開催、一週間で数度などまちまちである。 世帯数が少ない地域へは3年間かけて展開をしていく。
委 員	C	①長期間活動していくための人員確保として工夫はなにか。 ②地域での連携はどうなっているのか。
委 員	J	①これまで継続こられた方を中心に人員確保している。 ②地区部会の役員に町内会長、民生委員、地区部会の推進員がいる。 全部の組織に、情報が届くように努力している。 (質疑終了)
委 員	K	⑭防災・減災活動の実施 【エリア内全町内自治会へ呼びかけ、消防機関への協力を得て、防災訓練を実施】 ・活動場所は、体育館やグラウンドを利用。 ・民生委員、福祉活動推進員、自主防災組織の助けを得ている。 ・主体は地区部会であるが、町内自治会を巻き込み活動展開する。 (質疑応答) なし
委 員	L	⑫活動団体同士の連携・交流 【あんしんケアセンターと連携し、定期的に地域ケア会議を開催】 ・地道な活動が功を奏して、自治会から声が挙がるようになった。 ・エリア内で一斉開催は難しく、地域ごとの開催が望ましい。 今年度2回、来年度4回を予定している。 (質疑応答) なし
委 員	M	⑮災害時に避難できる体制づくり 【避難所運営委員会の設立】 ・大規模災害へ向けた準備はエリア内では消極的であった。 ・エリア内3か所に設立予定であるが、進捗状況には差異がある。 ・3年計画ではあるが、前倒しで取り組んでいきたい。 ・課題は、エリアが広域なため住民が指定避難所へ避難できないことが予想される。地域で避難所運営をしなくてはならず、被災時の指定避難所と自助による避難所との連携を促進する必要がある。 (質疑応答)

委 員 長	活動主体として、地区部会と地区連協との関係はいかがか。
委 員 M	当初は行政からの取り組みであったが、今後は地区連協と協同で取り組んでいく。地区連協主体で地区部会は進捗管理を担う予定。 (質疑終了)
委 員 C	⑩助けあい活動の仕組みづくり ⑪見守り活動の仕組みづくり 【全住民参加型のご近所福祉活動、地区部会、町内自治会、民生委員などが助け合い見守り合う地域生活を推進】 ・ 広報紙は年2回発行。 ・ 各団体間の連携を深め、自治会加入の促進化につなげる。 (質疑応答)
委 員 長	独自で活動されている地域との連携はどうしているのか。
委 員 C	既存団体の活動を参考に取り組んでいる。 (質疑終了)
委 員 N	⑪見守り活動の仕組みづくり 【安心カードを作成し、配布】 ・ 活動主体はたすけあいの会である。 ・ 初年度は75歳以上のひとり暮らしを対象、次年度以降は75歳以上の世帯を対象に展開する。 ・ 孤独死が発見された場合、情報が限られるため積極的活用していく。
委 員 F	先程、大地震の予測について発言があった。 防災及び減災についての取組みを重点取組項目に選定されているエリアが多く見受けられた。担い手不足や団体間連携について課題があれば行政のサポートを借りて早急に推進していただきたいと思う。
委 員 C	広報活動など活発利用して情報共有を促進したいと感じた。

【議題2】今年度の年間スケジュールについて

高齢障害支援課	今年度の年間スケジュールについて ・ 本会議：10月、12月、2月を開催予定 ・ 運営企画委員会：7月、9月、11月、1月を開催予定 (質疑応答)なし 承認
---------	--